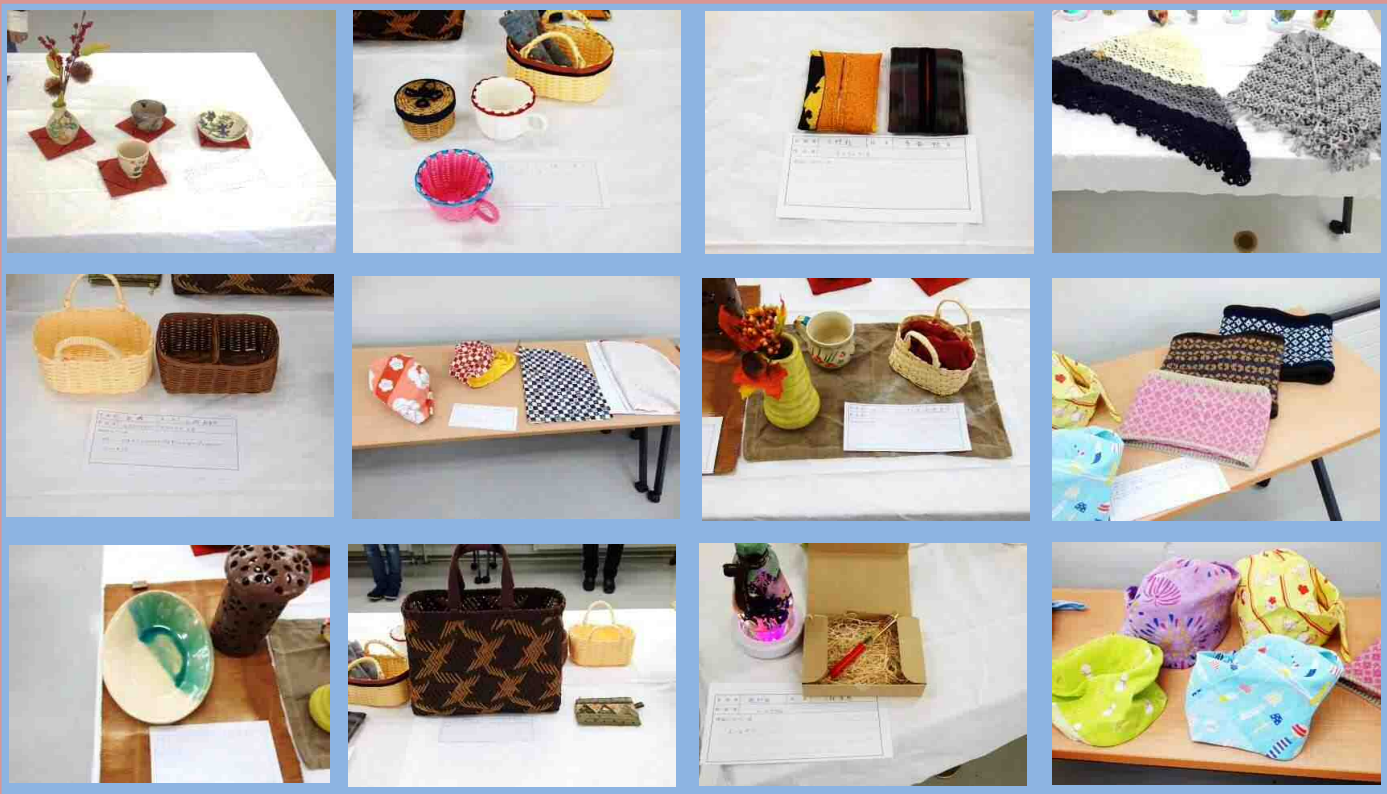
幸せの歌



10月29日開催のJA宗谷南女性部
「経営・生活・創意工夫展」の作品

JA宗谷南

2018NEN
12GATUGOU
～SEASON66～

JA宗谷南役員研修

11月13日に開催されました、第29回ＪＡ北海道大会に当農協役員13名が参加しました。

大会は、ＪＡ、中央会連合会の役職員、ＪＡ青年部組織、ＪＡ女性部組織の部員ら２４００名が参加しました。

基本目標である農業所得増大や、サポーターづくりに加え、新たに「時代に即した協同組合の価値創造」を含む議案を決議し、メインテーマである、北海道５５０万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を目指す事を誓った。又、北海道胆振東部地震などの災害からの復興・復旧と持続可能な北海道農業の確立に向けての特別決議も採択され閉会しました。尚、先日お配りしましたのは、この大会のダイジェスト版となりますので是非ご高覧下さい。

翌日、一行は農協役員研修という事で、福岡県福岡市にある、ホクレン福岡支店を訪問し九州の農業・経済状況について、宗像支店長、尾崎業務課長より、それぞれの状況などを説明して頂きました。福岡支店は、2課7業種に組織されており、その1業種に生乳製品化・家庭用・業務用乳製品販売が有り、全農、商社、食品問屋などを通じて市販用と業務用のブランド乳製品を販売しております。取扱いにつきましては家庭用1割、業務用9割で、特に業務用のバターにつきましては、北海道よつ葉乳業㈱のバターが占めているという事でした。

九州の経済規模は古くから「10％経済圏」と呼ばれており、全国ブロック別面積構成比、又、枠内総生産額の全国比率など、経済分野に至るまで全国の10％内外のシェアを有しているとの事でした。

翌日は、高知県安芸郡ＪＡ馬路村を訪問しました。馬路村は高知県35市町村で人口が2番目（７８０人）に少ない村で、村民の自立意識が高いのが特徴であり、古くから林業で栄えたところで、建設材や工芸品の製造・販売を行い、営林署が2カ所もあった様でしたが、外国産の安価な建設材などの輸入が始まり、次第に林業が衰退しました。ＪＡ馬路村は、近隣の農業協同組合が合併する中、単独での生き残りを図り、馬路村の製品である事を前面に出して村全体を売る、「ゆず加工品」の全国ブランド化に成功しました。昭和40年代頃に「ゆず」の栽培が本格的に始まりましたが、当時の馬路村の「ゆず」は無骨な形で見栄えが悪く、青果としての販売は低迷しておりましたが、昭和50年に「ゆず」の果汁を利用した加工品として「ゆず酢」や「ゆずジャム」、「ゆず味噌」などを生産し、ダイレクトメールなどを利用し除々に販路を広めました。現在の主力商品の一つでもある濃縮ジュース「ごっくん馬路村」は人気商品として全国的に定着しています。現在は、インターネットでの販売が中心となり、近年の売上高は30億円を突破しており又、「ゆず」の加工時に発生する皮などの残渣はおが屑と混ぜて発酵させ、「ゆず」の木々の肥料として再利用していました。

今回のＪＡ宗谷南役員研修は、ＪＡ北海道大会の参加、ホクレン福岡支店、ＪＡ馬路村を訪問し、17日に帰路に着きました。

JA馬路村のゆず受入業務

ホクレン福岡支店による概要説明

「経営・生活・創意工夫展」

コクワジャム

おはぎ

ハーバリウム

開会の挨拶をする奥出女性部長

10月29日、毎年恒例のＪＡ宗谷南女性部「経営・生活・創意工夫展」が開催され、部員15名が参加しました。来賓には、農協より、向井地組合長・西澤営農部長、宗谷農業改良普及センターより江田次長にご臨席して頂きました。

始めに、奥出部長の挨拶に続き、向井地組合長より来賓の挨拶を頂きました。

出展数が少なかったのですが、陶芸や色とりどりのハーバリウムなど女性部の皆様の丹精のこもった作品の鑑賞・試食を楽しんで頂きました。

また、昼食には奥出部長が作った豚汁を参加者全員に振る舞い、５月に行われた視察旅行の話などに華を咲かせていました。

第67回全道JA青年部大会

12月6日～7日、札幌パークホテルにて全道ＪＡ青年部大会が開催され、全道各地の盟友と関係者約830名が参加し、当青年部からは、松田部長を始め6名の盟友が参加しました。

大会テーマ「Exciting Innovation 農力全開！」とし、1日目は、全道ＪＡ青年の主張大会・全道ＪＡ青年部活動実績発表大会・分科会・懇親会（アームレスリング大会・純農ＢＯＹオーディション）、2日目は、1分間ＣＭ・基調講演（農業ジャーナリスト小谷あゆみ氏）・若手農業者へのメッセジー（ＨＢＣアナウンサー森結有花氏）・農村ホームステイ事例発表が行われました。

全体懇親会では、北海道農業協同組合中央会　飛田会長が、会場に駆けつけ、青年部の方々に「これからの将来を担う担い手として頑張ってもらいたい」とコメントし、最後には自慢の歌を披露しました。

1分間ＣＭと農村ホームステイ事例発表を当青年部が担当し、1分間ＣＭでは、「食育を子供たちと共に」と題し動画を作成し、全道大会の舞台で上映しましたが、惜しくも上位10作品には届かず、何とも悔しい結果となりました。

農村ホームステイ事例発表では、平成28年11月に本幌別地区関口牧場で実施した農村ホームステイについて、実際に教職員を受け入れた関口真也さんが発表しました。ホームステイを体験した時の感想や、自分たちが考えている以上に先生の農業に対して興味・関心があったこと、体験した先生がいる小学校から酪農体験授業の依頼があり、小学生に対しての食育活動が展開できたことなどを発表しました。関口さんは、発表の最後に「教育の現場に農業に対する理解者を増やしていきたい」と語り、発表を締めくくりました。

会場で歌を披露するJA北海道中央会飛田会長

農村ホームステイ事例発表をする関口理事

青年部　音標小学校総合学習発表会

11月12日、音標小学校で地域の産業（酪農）について調べた事の発表会がありました。青年部としても、昨年実施した酪農体験授業から同小学校に対して食育活動を実施した関係もあり、発表会に松田部長を始め当青年部から9名と、ＪＡ宗青協の十倉会長が参加しました。

子供達それぞれが酪農業を調べ上げ、分かったことや感じた事を発表しました。枝幸町の牛乳が全粉乳に加工され、お菓子になり消費者へと届けられていることを知ると、実際に自分たちで全粉乳を作り、チョコレートにまぶしたものを集まった青年部員に振る舞いました。

この発表会を受けて、ＪＡ宗青協十倉会長は、「予想以上に素晴らしい発表であり、将来農業に携わる仕事についてもらいたい。」とコメントしました。当青年部松田部長は、「自分たちが当たり前のように感じていることが子供達にとっては、新鮮なことであり、改めて自分たちの農業に対して自信が芽生えてきました。」とコメントしました。

感謝のコメントをする松田部長（左）

枝幸4Hクラブ視察研修旅行

10月24日～25日、枝幸４Ｈクラブ６名が富良野市で酪農経営を行っている奥牧場と恵庭市にある農機具メーカーの㈱コーンズ・エージーの視察研修を行いました。

24日に視察した奥牧場では、一頭当たり約１４，０００kgの高泌乳牛群で、乳牛の能力向上と乳質改善を目指し、良質粗飼料確保による経営の規模拡大とコスト低減に努めており、牛舎の特徴として光コントロールを採用し、とても明るい牛舎構造でした。また、１００頭繋ぎの牛舎では18年も前からトンネル換気や連続水槽などを導入しており、乳牛のストレス解消と生産性向上に力を入れていました。

搾乳牛の飼料給与メニューは、ＴＭＲで45kg採食出来るよう設定していました。そのせいか11時に視察に伺ったにも関わらず乳房が張っていたのが印象的でした。

翌25日は、㈱コーンズ・エージーの視察を行いました。会社の概要と最先端酪農機械の説明を受けた後、２６０馬力の大型トラクターや搾乳ロボットを見学しました。

今回の視察研修では、将来の自分達が経営主になった時の経営方針など部員同士で夢を話合いながら、視察研修を終え帰路につきました。

奥牧場視察の様子

就農研修生向け座学研修会

11月30日、酪農振興センターにて就農研修生向けの座学研修会を行いました。

この座学研修は、平成28年度から年4～5回行われており、就農研修生の他、若手酪農家なども参加し専門的な知識の習得を目指し頑張っています。

今回は、就農研修生、若手酪農家、宗谷南酪農ヘルパー利用組合の職員等17名が出席し、「協同組合について」と「クミカン制度について」の講習が行われ、協同組合については、向井地組合長が講師を務め協同組合を取り巻く農業情勢と連合会の役割やJA宗谷南の機構図などを説明し、協同組合の理念や地域との協調性の大事さ、正組合員になられた時の心構えなどを教えました。

クミカン制度については、宗谷南農協営農部営農課の村田営農係より説明があり、組合員勘定制度の歴史から、クミカン運用に必要な「営農計画書」の作成方法を教えました。

特にクミカン制度の利用は、農協理念そのもので、営農計画書は、農協事業計画に使われ、クミカンのデータ計数管理の他、組合員にとって経営分析や税務申告にも使えるので大きなメリットがあるこのような相互扶助の関係性もあるが、過去のクミカン運用の悪い例を紹介しながら、不適切なクミカン運用方法は組合員と農協経営に大きな損失をもたらす事を伝えました。

研修生の皆様には、この研修会を通じ酪農に関する技術知識と経営感覚を少しでも身に付けてもらえるよう今後も継続していきます。

農協懇談会

12月7日～8日にJA宗谷南農協懇談会が行われました。

組合長の挨拶では、懇談会がこの時期まで遅れたことをお詫び申し上げ、近況の農政状況や、農業情勢、9月6日の胆振東部地震における北海道全地区ブラックアウトにより、当農協では170tも送集乳不能乳量があり、ホクレンで生乳の部分と停電によるAコープの損失部分を補てんすることを報告しました。

懇談会の議題については、営農計画基本方針や上半期仮決算状況、最近の酪農情勢について、出荷乳量状況、㈱アグリサポート枝幸ファームAYNIの日量が1000kg、牧場視察の状況などについて説明がありました。

また、参加された組合員の皆様から、様々な意見や要望が活発に出され有意義な懇談会となり、今後も皆様の意見や要望を取り入れられるような懇談会にしていきたいと思います。

懇談会終了後は、オードブル等でテーブルを囲み、和んだ雰囲気の中でも農業情勢等の話で盛り上がっていました。

JA宗谷南酪農研修生宿泊施設完成

11月、JA宗谷南酪農研修生宿泊施設が乙忠部の㈱アグリサポート枝幸の敷地内に完成しました。宿泊施設は、酪農研修生2組が使用でき、冷蔵庫・洗濯機が備え付けの1LDKとなっています。今回完成した宿泊施設と担い手センターで酪農研修生の受け入れを行っていきたいと考えています。

新天地で新たな夢を！
廣山夫妻枝幸町へ移住

今年の本誌10月号の枝幸町新規就農誘致促進セミナーの記事で紹介しました、廣山辰徳さんと妻の智尋さんが12月17日枝幸町山臼へ移住されました。

廣山夫妻は、帯広市清川町で酪農経営を営んでいましたが、広大な土地に魅せられ枝幸町への移住を決意し、当日ＪＡ帯広川西の有塚組合長始めＪＡ職員等6名が同行の中、（有）ヤマウスファームに到着し、これからここで酪農経営を行う牛の状態や牛舎等を確認し、有塚組合長は、廣山さんに激励を送り別れを惜しんでＪＡ帯広川西へと帰りました。

今後廣山さんについては、現ヤマウスファーム代表の坂本さんや従業員の方々から、ヤマウスファームの特徴などを学びながら一緒に働き、来年7月頃を目途に経営を移行する予定です。

廣山さんからのコメント

帯広市とは環境が異なるので、毎日手探りですが、一日でも早く枝幸町民として、そして枝幸町の酪農家として一人前になれるように精進してまいりますので、皆様どうぞ宜しくお願い致します。

枝幸・浜頓別・雄武地域ベトナム技能実習生交流会

11月26日、外国人技能実習生受入監理団体である、㈶東亜人材北見主催により、ホテルニュー幸林にて枝幸・浜頓別・雄武地域のベトナム技能実習生が集い、昼食交流会が行われました。猿払村から雄武町までの地域のベトナム技能実習生11名が参加し、うち枝幸町からは大塚牧場から2名と㈱アグリサポート枝幸から4名の参加となりました。

この地域で技能実習生が集まり、このような交流会を開催するのは初めてとのことで、枝幸の味覚を味わいながら、日本で体験したこと、経験などを語り合い、会話に花を咲かせていました。その後ビンゴゲームを行い、出てきた番号に一喜一憂しながら大いに盛り上がりました。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

【北大との連携協定を締結】

JAグループ北海道と北海道大学は、食と農を中心とする幅広い分野の科学技術・学術及び産業の振興、教育の発展を目的とした包括連携協定を締結しました。
農業・農村を取り巻く様々な課題に対応するべく、北海道大学と共に、先端技術を活用した農業生産、道産農畜産物の価値創出、地域社会づくりや人材育成などの面で連携・協力関係を築きながら「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を目指します。

JA北海道信連

JAバンク北海道は、家族や周囲の人へ伝えたいことを書き残す「エンディングノート」のセミナーを初開催しました。（10月・札幌市）
行政書士の山根氏が相続・遺言の仕組み等を解説後エンディングノートは遺言書を作る準備にもなる」とJAバンク版エンディングノート「いまから帳」の書き方を紹介し活用を呼びかけ、「大変参考になった」等、参加者にご好評いただきました。

ホクレン

北海道の味覚を一堂に集めた毎年恒例秋のイベント「２０１７第４６回ホクレン大収穫祭」を札幌三越本館で開催しました。生産者の方の営農へのこだわりを消費者に知っていただくとともに、消費者の方がどんなことを生産者に望んでいるかを知りあう場として、交流イベント「食と農のふれあい広場」を開催。ＪＡ道青協、ＪＡ道女性協の役員の皆様のご協力もあり、どのイベントも大盛況でした。

JA共済連北海道

１０月より、地域貢献活動の一環として組合員や地域住民の皆さまにJA共済のロゴ入り反射材付き帽子５万個を配布しています。夜間でも運転者が歩行者を視認しやすくすることを目的に全道ＪＡを通じて順次配布し、交通事故未然防止と根絶を呼びかけます。
今後も組合員や地域住民の皆さまが安心・安全に暮らせるよう、地域貢献活動に取組んでまいります。

JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年３回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。
ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので是非ご一読ください。

暴風雪に充分警戒を

今年も雪の季節となり、毎日の作業の他除雪作業が加わり大変苦労されているかと思います。近年、道内では、局地的な暴風雪の発生など厳しい気象に見舞われている状況にあり、集乳ローリーの運行に支障が生じるなどの影響が出てきています。
また、畜舎やD型ハウスなどの施設においては、積雪による全壊や半壊など甚大な被害が報告されています。老朽化している施設に限らず、こまめに屋根の雪下ろしを行うなど対策が必要とされますが、作業を行う際は、必ず家族などに伝えてから行うことや、できれば二人以上で作業するなど、万が一の事故を考えて行ってください。
今後も最新の気象情報に注意し、早めの準備、安全な作業をお願いします。

育成牧場一斉退牧

10月26日、枝幸町公共育成牧場の退牧が行われました。
晴天の中、町内若手酪農家、枝幸町職員、農協職員らの協力の下、入牧時よりも100kg以上増体した育成牛を相手に四苦八苦しながらの作業となりました。
当日、自分の牧場に帰る牛たちはおよそ270頭で、残りは育成牧場と雄武町のアグリ牧場へ継続して預けられることとなります。

秋の農業用廃プラ回収

10月23日～26日で、農業用廃プラの回収を行いました。今回の回収量は、約93tありました。春の回収と合わせると173tになりました。
廃プラなどは産業廃棄物であり適正に処理する必要があり、またリサイクル可能な大切な資源でもあります。北海道ではリサイクル率100%を目指していますので「分ければ資源、まぜればゴミ」リサイクルで循環型社会を目指すため今後もご協力お願い致します。

編集委員

村田　太
野澤　隼希
川合　直樹
滝口　直也
森川　忠幸
高本　等
浦谷　正憲